

アイ ビー

Business Information Bank

2025.02.24 Mon

No. 3011



春日市倫理法人会 会長
宮原博幸氏

特別
×
対談

福岡経営研究会 会長
吉田英司氏

変化の時代を乗り越える
経営者が学び合う“リアルな”場と仲間の力



業界を読む

トラック業界

悪質な「水屋」の排除なるか

規制に動き出す業界と国交省

■ 注目記事 PICKUP ■ 企業公告 ■ 情報 S.I.C (SECRET INFORMATION IN COMPANY)

■ アラーム・ワンポイント情報 ■ モルグ・カンパニー(破綻情報)

■ 高収益企業 ■ 裁判事件名記録 ■ TOPICS

変化の時代を乗り越える 経営者が学び合う“リアルな”場と仲間の力

福岡経営研究会 会長 吉田英司 氏



×



春日市倫理法人会 会長 宮原博幸 氏

スキル向上や課題解決など、経営者としての成長に取り組む経営者団体への注目が高まっている。コロナ禍以降、経営環境の変化と不透明感が増していることに多くの経営者が危機感を強めているようだ。そうした状況のなか、全国に拠点網を配置し経営者を支える団体として「経営研究会」と「倫理法人会」がある。福岡経営研究会会長・吉田英司氏と、春日市倫理法人会会長・宮原博幸氏に、両団体の目的や効果、さらには自身の会社経営への生かし方などについて語り合ってもらった。

倫理法人会の活動・目的 心の持ち方が会社を変える

——まずは春日市倫理法人会について教えてください。朝早くから集まっているという印象がありますが、実際はどのような活動をしているのでしょうか？

宮原博幸氏(以下、宮原) 倫理法人会は全国に750の単会があり、約7万社の企業が会員になっています。福岡では38単会で約4,000社の経営者が学んでいます。倫理法人会の特色としては、日本全国約700カ所にて毎朝6時から開催している経営者モーニングセミナーと、倫理法人会発行の小冊子「職場の教養」を用いた活

力朝礼があげられます。

経営手法や数字の上げ方を直接教えるというより、まずは『生活習慣』や『心の持ち方』を整えよう、というのが大きな特徴ですね。コロナ禍で大変だった経営者も多いですが、逆に“自分を見直すきっかけ”として、朝のモーニングセミナーに参加して得るものが大きいという声もあります。朝6時から集まる会合は“変わっている”とよく言われますが、その分、そこで得た気づきや学びを、そのまま朝礼や家庭に持ち帰れる利点があります。

——実際に、宮原会長ご自身も“心の在り方”の学びによって会

社が好転した経験があるとか？

宮原 はい。私は体調のことや家庭の事情もあり2回退会して、3度目でようやく本格的に倫理を学び始めました。そのときの8名の社員が同時に辞めるという苦難に直面しました。しかし、倫理法人会で先輩経営者の講話を聞くなかで私の課題が明確になりました。それが、会社の方向性や目的・目標の共有でした。

当社は造園業を営んでおり、まさに職人の世界です。彼らに対して目標を語っても、嫌がる社員たちが多かったのです。また、従業員にお金の出入りを見せても意味がないと



宮原博幸・春日市倫理法人会会長(左)と吉田英司・福岡経営研究会会長(右)

考えて、収支も見せていませんでした。今思えば向き合っていなかったのかもしれませんが。しかし、倫理法人会で生活習慣や家族との向き合い方など“土台”を整える学びを続けました。そのなかで目標を語り続け組織の透明化にも取り組みました。すると社内の雰囲気は徐々に良くなり、辞めた人たちが1人2人と帰ってきたのです。最終的にほとんどが我が社に戻ってきました。

経営研究会の活動・目的 経営の実践的意見交換

——福岡経営研究会ですが、こちらは経営理念の作成や数値管理など“実践的なノウハウ”を学ぶ場という印象があります。

吉田英司氏(以下、吉田) 経営研究会は、多くの経営者が学んでいる「日本創造教育研究所」(以下、日創研)を母体として全国に64の単会、会員数約4,000名が在籍しています。特徴は「経営計画書の作成と実践」「経営者同士の悩みの共有・同志的結合」「リーダーシップ・意思決定

力の研鑽」の三本柱だと思います。経営計画書作成を通して、数値管理やビジョン策定を具体的に、仲間同士“共に学び”ながら“共に栄える”道を探っています。例会などで数値・経営課題を赤裸々に共有して、会員同士アドバイスをし合いながら切磋琢磨できるところが大きな魅力ですね。なかなか異業種の方と意見交換できる機会は少ないと思いますが、当会はそれができる。異業種だからこそ新しい視点から気づきを得たり、学ぶことが多くあります。

——たとえば同業者の会合などではなかなか数値まで公開しづらいと思いますが、経営研究会ではそれを共有してもらえます。そこが大きなメリットといえそうですね。

吉田 そうなんです。「孤独な経営者」という言葉があるように、経営者は同じ悩みを共有できる相手が社内にはなかなかいません。しかし、経営研究会では日創研で共通の学びを経験してきたメンバー同士、数値も含めて“本気の相談

ができる環境があります。しかも、単に相談して終わりではなく、実際に成果へつながっている事例が数多く生まれています。

リアル復活で 会長職の醍醐味体感

——お2人とも今は単会の会長を務めているわけですが、それによって会社経営にも何か変化があったのでしょうか？

宮原 私は倫理法人会の会長と同じタイミングで小学校のPTA会長もやることになり正直“両方は無理じゃないか”と思いました。そのなかで先輩経営者の講話のなかでの『できると思えばできる』を思い出し引き受けました。すると何が起きたかという、『自分の言動が周りに与える影響』や『メンバーや周囲の方をどう巻き込むか』を考えるようになり、会社へ戻ったときもリーダーとしての意識が高まっていました。結果、社員にしっかり任せるところは任せ、私がいなくても回るよう

特別対談

になっていきました。

吉田 同感です。経営研究会の会長は理事会運営や会員拡大など、やることが多く、自社の経営との両立が難しいと思われるかもしれませんが、実は『自社の経営』に重ね合わせてリーダーシップを鍛える最高の機会なんですよ。どんな組織であっても、まとめるには目標設定、意思決定、フォローアップ…そのすべてが大事で、それを会で実践する過程で自分の弱点がわかる。その弱点を強化、改善しながら会を動かす経験は、自社のマネジメントにそのまま還元できます。

——なるほど。多くの経営者団体がコロナ禍による接触機会の減少で会員数が減ってし



宮原博幸(みやらはら・ひろゆき)

春日市倫理法人会会長

1964年太宰府市生まれ。単会運営理念「年輪経営」を実践し、緩やかな組織の拡大による活性化を目指し、楽しみながら倫理法人会の普及活動・継続フォローに注力するが就任2年目にして会員20社の純増を実現した。(株)宮原福樹園社長。経営理念は「人と緑が共存できる未来づくり」。

まったという話も聞きましたが、両会への影響はいかがだったのでしょうか。

宮原 春日市倫理法人会の場合、コロナ前120社の会員がコロナ後80社まで減ってしまいましたが退会された会員の会社を訪問し、現状を聞く活動を継続するなかで復帰した会員もいます。また経営者の知人からの紹介を通じてモーニングセミナーへの参加を呼びかけ、結果的に150社の経営者が集まる単会へと成長しました。

今では朝のモーニングセミナーにも多くの方が参加するようになりました。鍵はやっぱり「リアルな関わり」ですね。いくらSNSやオンラインが発達しても、実際に顔を合わせることで深まる部分大きいと改めて感じています。

吉田 すごいですね。

宮原 急がば回れではないですが、「年輪経営」といいますか会員ファーストで取り組んだことが良かったと思います。どんな会でも会員拡大を目指すわけですが、当会では取り組みを共有して理解・賛同してもらって無理なく入会していただく。急増しても一気に減少しない。会

員満足を追求することで成果につながりました。

吉田 福岡経営研究会でも、オンライン参加が広がったことで離れがちになった会員とどうつながり続けるかは大きな課題です。対面交流の重要性を改めて伝えつつ、会から足が遠のいている会員へのフォローの連絡はもちろん、SNSやHPでの情報発信やDMや会報誌などを送ることで、会を身近に感じてもらえるような取り組みが大事だと思っています。継続的に接点をもった「関わり」が、会の活性化にもつながっていくのではないのでしょうか。

当会は、本入会の前にはどんな会かを知ってもらう機会として「入会トライアル」があります。4つの特典があり、会のさまざまな勉強会に参加できるのはもちろんのこと、その後の懇談会などを通して、まずは悩みを話せる環境、関係性の構築に注力しています。私も含め皆、最初は孤独でしたから、トライアルに参加する方々に親身に寄り添うことができたと思っています。

人間力×経営力の相乗効果 経営者団体を活用するメリット

——経営者向けの団体はほかにもライオンズクラブやロータリークラブ、中小企業家同友会などさまざまあります。倫理法人会と経営研究会、それぞれどのような経営者に向いていると思いますか？

宮原 倫理法人会の場合、経営数字を学ぶ団体ではないので、『家庭や自分自身のメンタルを整えたい』『従業員との信頼関係を深めたい』といった心の部分で行き詰まっている方にはとくに向いていると思います。実際、“離婚”や“親子関係”など一見経営とは無関係のような悩みを抱えている経営者が、朝のセミナーで救われて会社も好転したというケースは少なくありません。

吉田 経営研究会は文字通り「経営」を研究する会です。単なる座学ではなく、企業理念の構築から組織マネジメント、業績アップまで、経営者が直面する本質的な課題に真正面から向き合う実践的な学びの場です。ですから『会社を黒字化したい』『DX化や新規事業を起こしたい』『人材育成に具体的に組みたい』という明確な経営課題をもっての方に向いていると思います。会での学びは、すぐに現場で活かせる具体的なものばかりで、実際、当会の80%を超える会員が黒字経営を達成しています。

——“人間力を高める”という点は共通していると感じます。不確実な時代を乗り越える力になるのでしょうか？

宮原 そう思います。結局“数字だけ”でも“心だけ”でも経営はうまくいかない。両輪が大事なんですよね。私自身もほかの経営

者団体に所属しながら倫理法人会で学んでいます。複数のコミュニティを掛け持ちする際に気をつけているのは、参加団体の長所を見ながら参加することで、いろいろな視点を得られて非常に面白いですよ。

——両会ともアプローチは違うものの、成長意欲をもつ経営者に価値を発揮しそうですと感じました。

宮原 もし『業績は悪くないけれど家族がバラバラで心が晴れない』とか『社員とのコミュニケーションがギクシャクしている』など、“心”の面で悩んでいる方がいたら、一度、朝のモーニングセミナーに参加してほしいですね。朝型生活の気持ちよさを知るだけでも新鮮ですし、そこから人としての在り方を学ぶことで、結果的に会社も良くなると確信しています。

吉田 当会には志高く経営に取り組み仲間が集まっています。『企業としてさらなる飛躍を目指したい』『実践的なノ



吉田英司(よしだ・えいじ)

福岡経営研究会会長

1969年福岡市生まれ。2012年、福岡経営研究会に入会。24年1月に会長就任。封筒・紙袋製作を手がける創業75年の福岡製袋工業(株)代表取締役。経営理念は「クロスメディアで社会の架け橋に」。

ウハウを学びながら経営者同士の絆を深めたい』そんな想いをもっている経営者には、経営研究会の門を叩いてほしいです。先輩経営者が自社の経営数値を含め成功体験はもちろん、苦労や失敗までも共有してくれる場合は、ほかにはなかなかありません。そこに飛び込んで一緒に本気で学び、実践していけば、必ず組織や業績に変化が起こります。まずは「入会トライアル」に参加して、雰囲気を感じ取っててください。

(鹿島譲二)

まとめ 経営者仲間との学びの成果

- リーダーシップや意思決定力が磨かれる。
- 経験が社内経営に還元され、人材育成や事業拡大に生きる。
- 経営者としての孤独や悩みを共有し合える、貴重な学びの場。
- 心と数値、両方の視点を大事にしてこそ、不確実な時代を乗り越えられる。
- 複数の団体を上手に活用すれば、多角的な気づきや広い人脈が得られる。